



平和記念資料館



思いのこもった千羽鶴を捧げました



式典中、真剣な様子でメモを取ります



灯筆にはメッセージを書きました

70年の時に思いをはせて 伝えよう平和の尊さを

～広島平和記念式典に参列

広島に原爆が投下されて70年。平和記念公園には様々な年齢・国籍の方が訪れ祈りを捧げました。今年、被爆者の平均年齢は80歳を超え、戦争体験者の生の声を聴く機会は、今後ますます少なくなっていくことでしょう。これからは、戦争を知らない世代が学び、考え、次の世代に語り継いでいかなければなりません。

村では、昭和63年に「非核平和美浦村宣言」を行い、戦争の悲惨さと平和の尊さを次代へ語り継ぐための活動を続けています。今年もその一環として、小学生親子3組と村代表、教職員代表が広島市の原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(平和記念式典)に参列しました。

ここでは、参加者が広島派遣を通して感じた、平和への思いを語って頂きました。(敬称略)



真家好明
(安中小学校校長)

戦争で初めて米国が広島市に原爆を落として70年となった8月6日、広島市の平和記念公園で平和祈念式(平和記念式典)が挙行されました。この式典に参列させて頂いて原爆死没者を心から追悼するとともに、その惨禍を語り継ぎ、広く内外に伝え、核兵器のない世界を築くことがいかに重要なことであるか改めて思い知らされました。

今、私たちにできることは、今まで受け継がれてきた命と平和への思いを受け止め、次の世代へ継承して行くことだと思えます。今回、このような貴重な機会を与えて頂いた事に深く感謝いたします。



各小学校で鶴を折りました



松浦幸信
(美浦村区長会長)

参加した3人の小学生たちは、出発当初は互いに会話もできない雰囲気であった。しかし、広島で行動を共にしているうち、徐々に仲良く話をするようになり、最終日、帰りの新幹線では、横3列の席に3人が一緒に座り、和気あいあいのうちに帰ってくる状況まで大きく変化しました。

本派遣事業の目的は、子ども達の非核・平和・友好を大切に育てることであり、今回の事業もその目的を十分に達成できたものと確信することができた。事務局、同行のご父兄及び真家安中小学校長に感謝しています。ありがとうございます。



黒田愛莉
(木原小6年)

私は8月5日から7日にかけて、広島へ木原小で作った千羽鶴を奉納しに行きました。資料館に展示されていたたくさんさんの遺品等を見て、私は怖くなり大きなショックを受けました。たった一発の原子爆弾は一瞬にしてたくさんさんの命を奪い、被爆した人達は、その後も辛い思いをして生きてきました。私は、このようなひどいことをした、原子爆弾を作った人、落とした人がとても憎いです。



黒田達也
(木原小保護者)

広島市の被爆から70年という節目の年に平和記念式典に参

列させていただきました。一発の原爆により一瞬にして奪われた14万の命、今もお後遺障害により苦しむ方がたくさんいること。記念資料館の見学、被爆体験の講話、朗読会等を経て、本当に残酷で平和を地獄に変えてしまった原爆の恐ろしさを改めて痛感しました。戦争は本当に残酷なものです。しかし、今もお戦争が起り、核兵器を保持している国がある現実。世界が少しでも平和に近づくこと、核兵器の廃絶を心から願っております。今回は貴重な経験をありがとうございました。



新 泉 幹雄
(安中小6年)

僕には、広島で学んだこと、感じたことがあります。一つ目は、原爆ドームを見た時でした。あの割れたガラス、崩れたレンガ、残った骨組み：あんな一つの爆弾でこんな大きい建物が崩れてしまう、「原爆」の怖さを感じました。二つ目は、被爆したとき



小 泉 幹雄
(安中小保護者)

の爆風と熱線と放射線の話を知ったときでした。その中で一番怖いと感じたのは、温度の話です。温度は3千〜4千度と聞いてビックリしました。それじゃあ人間も建物も溶けてしまおうと思いました。これからは、こんな恐ろしいことが二度と起こらないように、美浦村に帰ってからも広島で感じたことを話したいと思えました。

今回、被爆70周年という節目に親子で式典派遣事業に参加してもらい大変感謝しております。印象深かったのは被爆者の体験講話です。3歳の時に被爆されたとのことですが、私自身に置き換えると、3歳当時の出来事は何も覚えていません。大概の方は同様だと思います。その方が、詳細までは記憶していないながらも体験を語られていたのを聞き、私たちが想像できないような衝撃的かつ悲惨な体験だった



佐々木大輔
(大谷小6年)

のだと思いました。私たちが忘れてはいけないことは、慰霊碑に刻まれている「安らかに眠って下さい。過ちは繰返しませぬから」の言葉に集約されていると感じました。

ぼくは広島に行き、被爆者体験講話や平和記念資料館に行き、いろいろな事を教わりました。その中で、大切だと思ったことがあります。それは、飯田さんの被爆体験講話です。飯田さんは爆心地から900メートルの所で被爆したそうです。そこで自分が体験したいろいろなことを話してくれました。ですが、その話を聞いていくうちに、気付いたら飯田さんは泣いていました。それほど悲しみや、悔しさが伝わりました。そのうえ、飯田さんは今でも放射線の害が残っており、脳にがんがあるそうです。これらの話を聞いて、原爆は忘れてはダメなものだと実感しました。



佐々木和夫
(大谷小保護者)

戦後70年。節目の年に広島平和記念式典に参列する機会を与えていただきました。終戦直後に生まれた私ですが、広島を訪れたのは初めてでした。まず最初に感じたことは、町のいたる所に石碑のようなものがあつたことです。一発の原爆で、それまでの人の生活・人生・町なみ、全てを一瞬で失ってしまう戦争は、本当に悲惨で残酷だと思いました。



被爆体験講話講師飯田國彦さん